

総合地球環境学研究所

2027 年度（令和 9 年度）フェローシップ外国人研究員の募集について

1. 募集要項

◆フェローシップ外国人研究員の目的

地球研のフェローシップ外国人研究員制度は、海外の研究者が 2 ヶ月～3 ヶ月滞在し、所の研究プログラム、プロジェクト、部門、センターに関連した特定の研究に従事して頂く制度です。

◆選考基準

申請書は以下の選考基準に基づき審査されますので、申請者はこれらを考慮に入れ準備をおこなってください。

1. 申請書は申請者が希望するプログラム、プロジェクト、部門、センター又は室の内容や方向性に合致しているか。
2. 研究計画は一貫性があり、適切に準備されているか。
3. 期待される成果は明記されているか。
4. 申請者の学力や経験等がプロジェクト等との連携に十分なものであるか。
5. 受入研究者は申請書の提出前に情報提供をうけ、研究計画に同意しているか。(申請者に受入教員がない場合は、1 ポイントになります)

* 予定受入教員がない場合は、以下のリストを参照の上、申請前に国際交流係までご連絡下さい。

* 選考には専門外の研究者も参加することを鑑み、専門外の研究者にも理解しやすい平易かつ明確な記述で申請書が作成されていることが期待されます。

◆研究組織及び受入教員

申請者は地球研の受入教員と事前に協議し、滞在中の研究計画や活動計画を作成して下さい。事前に受入教員と連絡済みであることが想定されますが、参考までに受入教員の担当が可能な者を以下に記載しています。受入教員との協議については、申請書の提出期限の 3 週間前までに開始して下さい。 下記教員との連絡をご希望の方は、kokusai@chikyu.ac.jp に E メールをお送り頂ければ転送いたします。

フェローシップ外国人研究員(Visiting Research Fellows) 募集要項 (2027 年度)

研究プログラム及び研究プロジェクト

実践プログラム	
環境文化創成プログラム	
情報	https://www.chikyu.ac.jp/rihn/activities/project/program/01/
研究キーワード	科学と文化の対話
プログラム ディレクター	松田 素二 特任教授 — 社会人間学
プロジェクト	都市—農村の有機物循環とそのシステム構築に関する実践研究 —地域の価値観と科学的知見の融合をめざして—
情報	https://www.chikyu.ac.jp/rihn/activities/project/detail/25/
研究キーワード	organic matter circulation, waste valorization, urban and rural, land restoration
プロジェクト リーダー	大山 修一 教授 — 地理学、環境修復学、平和構築学、アフリカ地域研究
プロジェクト	科学とアートの融合による環境変動にレジリエントな在来知の高解像度復原と未来集合知への展開
情報	https://www.chikyu.ac.jp/rihn/activities/project/detail/26/
研究キーワード	Coral annual bands, High resolution paleoenvironment reconstruction, Drama and theater, Phenomenological reduction
プロジェクト リーダー	渡邊 剛 准教授 — 地球環境学
プロジェクト	地域知と科学との対話による公正で持続的な狩猟マネジメント
情報	https://www.chikyu.ac.jp/rihn/activities/project/detail/23/
研究キーワード	wild meat (bushmeat), tropical rainforests, hunting, wildlife monitoring, Indigenous and local knowledge
プロジェクト リーダー	本郷 峻 准教授 — 保全科学、野生動物管理学、霊長類学
土地利用革新のための知の集約プログラム	
情報	https://www.chikyu.ac.jp/rihn/activities/project/program/02/
研究キーワード	Land use governance, Agri-environmental and resources policy
プログラム ディレクター	荘林 幹太郎 特任教授 — 農業環境・資源政策、農産物貿易と環境、農業政策
プロジェクト	里山のつながりを取りもどす: コミュニティとつくるレジリエントで “ネーチャー・クライメートポジティブ”な土地利用の未来
情報	https://www.chikyu.ac.jp/rihn/activities/project/detail/24/

フェローシップ外国人研究員(Visiting Research Fellows) 募集要項 (2027 年度)

研究キーワード	Multifunctional land use, Satoyama and Social-Ecological Production Landscapes, Rural regeneration, Resilience and sustainability, Systemic transdisciplinary appraisal, Participatory action-oriented research, Living labs, Policy influence and impact
プロジェクト リーダー	Janet Dwyer 教授 — 農業経済学; 政策分析、農業環境政策、持続可能な農業・農村開発、農村企業、参加型社会科学研究、行動指向的研究手法、超学際的プロジェクトマネジメント、社会生態システム、社会関係資本、能力開発
プロジェクト	制度、価値、世界観の探究を通じた多元世界的土地利用の探求
情報	https://www.chikyu.ac.jp/rihn/activities/project/detail/74.html
研究キーワード	多元世界、土地利用制度、実践としての超学際、パターン・ランゲージ、認証、関係価値
プロジェクト リーダー	田村 典江 准教授 — 農林漁業政策、自然資源管理、コモンズ
地球人間システムの連環に基づく未来社会の共創プログラム	
情報	https://www.chikyu.ac.jp/rihn/activities/project/program/03/
研究キーワード	Human-Earth System, Trade-off and synergy, Homogeneity and diversity, Benefits and harms
プログラム ディレクター	谷口 真人 特任教授 — 水文学、地球環境学、持続可能性科学
プロジェクト	人・社会・自然をつないでめぐる窒素の持続可能な利用に向けて
情報	https://www.chikyu.ac.jp/rihn/activities/project/project/17/
研究キーワード	Food, Industry, Energy, Nitrogen issue, Nitrogen management, Nitrogen pollution
プロジェクト リーダー	林 健太郎 教授 — 生物地球化学、土壌学
プロジェクト	エシカル経済に向けて：商品貿易と消費が先住民の土地と生存に及ぼす影響への対処
情報	https://www.chikyu.ac.jp/rihn/activities/project/detail/77.html
研究キーワード	Socio-environmental footprints, Indigenous peoples, Ethical trade, Deforestation, Biodiversity conservation, Remote sensing, Spatial data science, LULC change
プロジェクト リーダー	NGUYEN, Tien Hoang 准教授 — 地理情報学、人間生態学、プラネタリーヘルス

フェローシップ外国人研究員(Visiting Research Fellows) 募集要項 (2027 年度)

基盤研究部

部門	計測・分析部門
機能	同位体分析装置を利用した環境に関する学際的共同研究を行う。
研究キーワード	Environmental isotope study, Multi-isotopes
メンバー	陀安 一郎 教授・基盤研究部長・部門長 — 同位体生態学、同位体環境学 申 基澈 准教授 — 岩石学、地球化学、同位体地質学
部門	情報・企画部門
機能	所内ネットワークや各種サーバなどの情報システムの 整備・管理・運用及び研究所が運用する設備やサービスに係る情報セキュリティ対策を 実施する。また、地球研アーカイブズ及び機関リポジトリを運用して研究資料の収集・ 管理を行い、知識情報資源の連携機能を提供する。さらに大学共同利用機関として、所外の様々な研究機関及びその研究者との共同研究を発展させるため、外部機関との研 究活動の連携を構築、強化するほか、所外の研究者に向けた研究成果発信にかかる支援をおこなう。
研究キーワード	Interdisciplinary Research
メンバー	深沢 圭一郎 教授・部門長 — 高性能計算、数値シミュレーション、太陽地球環境、IoT 石井 励一郎 准教授 — 生態系と生物多様性に関する理論・モデリング研究
部門	教育部門
機能	総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻総合地球環境学コースの運営及び学生支援、総合地球環境学の教育実践、ならびに教材の開発及び活用を通して、総合地球環境学の教育方法を確立し、多様な人材を育成する。
研究キーワード	Global environmental studies, Environmental / Sustainability Education, Transdisciplinary Methodologies, Capacity building, Education material development, Waste management and material cycles, Archaeological Geography
メンバー	近藤 康久 教授・部門長 — 考古地理学、超学際研究方法論 浅利 美鈴 教授 — 環境工学、環境教育・対話実践

フェローシップ外国人研究員(Visiting Research Fellows) 募集要項 (2027 年度)

部門	国際交流部門
機能	研究所の取組や研究成果を国際的に発信し、組織としての認知度を高め、国際的なパートナーやネットワーク等との連携を図るための一貫した戦略を策定する。また、研究所が持つ研究ネットワークを活用し、より広範な研究者コミュニティとの連携による相乗効果を明らかにするとともに、環境研究における文化的アプローチを進展させる。また研究所の国際的な活動全般の企画や支援等を行う。
研究キーワード	Science communication, science illustration, graphic communication, public understanding of science, transdisciplinarity, Environmental Humanities, Future Earth, Geography, Material culture, Agricultural sustainability
メンバー	Daniel Niles 教授・部門長 — 人間環境地理学 LAMBINO, Ria Adoracion Apostol 特任専門職員、センター長 — 地球環境研究、環境ガバナンス、超学際、能力開発
センター	グリーンナレッジセンター
機能	地球環境問題解決において重要な3つの柱とされるカーボンニュートラル、サーキュラーエコノミー、ネイチャーポジティブを同時に実現する社会の構築に向けて、グリーン人材（グローバル・コモンズの概念に立脚し、経済活動を含め、持続可能な環境を創出する人材等）の育成及びその活用による施策立案・実践を行う。 全国の大学・研究機関に加え、産（企業等）及び公（自治体やNGO等）と連携し、グリーン人材の育成及び活用を加速化する知的インフラを共創することを目指す。
研究キーワード	持続可能性、共創、人材育成プログラム、資源循環、気候変動、生物多様性、サステナビリティ経営と金融、環境市場形成、環境行動変容、広報、科学コミュニケーション、環境コミュニケーション、環境システム解析、有害化学物質管理、流域管理、水環境保全、環境配慮型技術
メンバー	浅利 美鈴 教授・センター長 — 環境工学、環境教育・対話実践 須藤 智徳 教授 — 環境資源経済学、環境政策、開発経済学、国際開発政策 岡田 小枝子 准教授 — 科学コミュニケーション論 小柴 絢一郎 特任助教 — 環境工学 三輪 耀大

フェローシップ外国人研究員(Visiting Research Fellows) 募集要項 (2027 年度)

	特任助教 — 環境工学
センター	フューチャー・アースセンター
機能	日本における Future Earth ネットワークにリーダーシップと一貫性を提供するとともに、西洋中心のアプローチを超えて、緊急の地球規模の課題に取り組むアジア発の持続可能性科学のビジョンを推進し、世界の研究者やネットワークにとっても意義のあるものとする。また、特に若手研究者の学際的な能力を育成することも目的とする。
研究キーワード	サイエンスミッション、超学際、持続可能性の変革、研究とイノベーション、共同設計、科学・政策・金融、グローバル研究ネットワーク
メンバー	LAMBINO, Ria Adoracion Apostol 特任専門職員、センター長 — 地球環境研究、環境ガバナンス、超学際、能力開発
センター	上廣環境日本学センター
機能	<ミッション> 1.「環境日本学」を確立し、国内外へ発信し、その普及と実践を目指す 2. 均質化する人間と自然の境界における環境課題に焦点をあて、日本の伝統知や在来知に隠されている感性を掘り起こし、コミュニティの再生を目指す 3.地域社会と連携し、ローカル、ナショナル、グローバル、各ステージを貫くダイナミックなコモンズ価値を拓く 人財育成を目指す <活動内容> 1.「人間にとって環境とは何か」という問いをめぐる国際的な研究・教育プログラムの開発 2.人間と自然が相即相入し、互いに働きかける領域で生成される“フィールドの力”と過去、現在、未来を繋ぐ文化的コミュニティを喚起する 3.「環境日本学」プログラムを理論と実践の体系化を行い、日本から世界へ発信する
研究キーワード	Culture, Environment, Nature, Human, Between
メンバー	吉川 成美 特任教授・センター長 — 農業経済学 秋山 知宏 特任准教授 — 統合学

(組織と構成は 2026 年 9 月 8 日現在)

フェローシップ外国人研究員(Visiting Research Fellows) 募集要項 (2027 年度)

◆受入期間

受入期間は 2027 年度（2027 年 8 月 1 日-2028 年 3 月 25 日）における 2 ヶ月以上 3 ヶ月以下とします。ただし、予算の状況によっては、最大 6 ヶ月間までの延長を検討する場合があります。そのような延長を希望する場合は、あらかじめ応募時に最大の希望受け入れ期間を明記していただく必要があります（明記がなかった場合、検討の対象となりません。また、希望受け入れ期間を保証するものでもありません）。

◆期待されること及び義務について

フェローシップ外国人研究員は地球研のプログラム、プロジェクト、又は、基盤研究部や各室に関連した特定の研究に携わることや地球研の教職員やスタッフとの関わりが期待されています。なお、以下の 2 点については、義務となっています。

1. セミナーで 1 回以上の研究発表または講演
2. 活動報告書の提出

◆応募資格

- ・博士の学位またはそれに相当すると認められる資格を有していること
- ・海外の研究機関で雇用されている研究者（日本国籍保持者を含む）又は、日本の大学や研究機関で雇用されている外国人研究者（申請者は、地球研での滞在期間終了後まで、自国での雇用が継続することを前提とします）

◆経費

地球研が定める規程により、滞在費（宿泊費及び日当）を支給します。支給額は下記の通りです。

支給額： 237,000 円（滞在 30 日あたり）

※規程により、滞在費の支給額は、滞在期間が 30 日を超える期間は上記支給額の 90%、60 日を超える期間は上記支給額の 80%となります。

フェローシップ外国人研究員は、割引料金で地球研ハウスに滞在することができます。

◆渡航費等

地球研の規程等に基づき、居住地域又は本務先から地球研までの往復 1 回分の旅費（エコノミークラス）を支給します。

◆保険

来日前にご自身で海外旅行保険等にご加入下さい。滞在期間が 3 か月を超える場合は、国民健康保険への加入が必要です。

フェローシップ外国人研究員(Visiting Research Fellows) 募集要項 (2027 年度)

◆研究費

150,000 円の研究支援経費の利用が可能です。

◆宿泊

地球研ハウス（敷地内）に、割引料金で滞在することができます。

◆所内施設の使用

座席、電話（PHS）、所内カードキー及びインターネットアクセスを提供します。

◆研究時間及び休暇

フェローシップ外国人研究員は地球研で雇用されていないため、研究時間や休暇については特に定められていません。参考までに地球研のサポートスタッフの業務時間は平日午前 8:30 - 午後 12:15 及び午後 1:00 - 午後 5:00 となっています（祝祭日、夏季一斉休業日、年末年始休業日を除く）。

2. 応募方法

◆締め切り

2026 年 12 月 11 日（金）（必着）までに、応募に必要な書類を電子メールにて上記提出先へ提出してください。

◆提出書類

1. 2027 年度用所定様式の願書

2. 以下の情報を記載した CV :

1. 主な研究分野、学位、取得年月日
2. 職歴
3. 主な出版物一覧（査読付きかどうか記載）

3. 応募者の所属機関からの在職証明 1 通（書式は任意）

※地球研滞在時（2027 年度）に所属機関に雇用されていることを証明するもの。日本語または英語以外の言語の場合は、日本語または英語の公的翻訳を添付のこと

4. 応募者の経験や能力を評価できる立場にある方からの推薦状。このレターは推薦者から直接 kokusai@chikyu.ac.jp（国際交流係）に送ってください。

5. 提出書類確認シート

フェローシップ外国人研究員(Visiting Research Fellows) 募集要項 (2027 年度)

《注意事項》

- 書類は日本語または英語で作成してください。
- 本研究所指定の 2027 年度用願書（コピー可）以外の様式による申し込みは認めません。
- 在職証明書の発行を依頼する際、次のことを所属機関に説明する必要があることにご留意ください。
①本制度に応募すること
②採択された場合、申請期間において一時的に地球研に滞在すること
在職証明書は PDF 形式で申請者もしくは所属機関より電子メールにて提出してください。なお、他の目的のために利用したものは受理いたしません。
- 1 名の地球研教員が受入教員となるフェローシップ外国人研究員の人数は最大 2 名です。
- 受入教員との協議については、申請書の提出期限の 3 週間前までに開始して下さい。
- 書類の不足、不備、虚偽、また、求められていない書類の提出がある場合は審査対象としません。
- 提出書類は返却しません。なお、個人情報の取扱いについては、国内関連法規を遵守し、取得した個人情報はフェローシップ外国人研究員制度の業務履行以外には利用しません。

3. 募集から選考までのスケジュール

フェローシップ外国人研究員候補者の選考・採択手続きは 12 月から 4 月にかけて行います。選考結果は所内での選考会議終了後、2027 年 4 月末までに国際交流係を通じて応募者全員に連絡します。フェローシップ外国人研究員の選考は競争的であること、また当該年度の研究所予算の都合によっては、実施されない可能性があることにご留意ください。また採否に関することや選考理由の詳細についての問い合わせには応じられませんのでご注意ください。

2026 年 9 月 11 日(金)～ 2026 年 12 月 11 日(金)	応募期間 募集要項や申請書は地球研のウェブサイトで公開されます。
2026 年 12 月 11 日 (金)	応募締切 申請書は国際交流係 (kokusai@chikyu.ac.jp) に締切日必着でメールにより送付ください。 ※受入教員との協議については、本期限の 3 週間前（2026 年 11 月 20 日）までに開始して下さい。
2026 年 12 月中	書類受理通知 応募者全員に書類受理についてメールで通知します。

フェローシップ外国人研究員(Visiting Research Fellows) 募集要項 (2027 年度)

2026 年 12 月～2027 年 4 月	審査および選考 提出された書類によって審査を行い、所内会議での選考を経てフェローシップ外国人研究員を決定します。
2027 年 4 月	審査結果の通知 国際交流係から地球研の受入教員に結果を連絡します。
2027 年 4 月中旬	正式通知 予算の内示後に、採択者に正式に結果を通知します。
2027 年 4 月中旬以降	採択されたフェローシップ外国人研究員に、国際交流係から来日 手続の詳細を連絡します。 (ビザ申請などの来日手続きは来日約 3 ヶ月前より順次開始しま す。)
2027 年 8 月以降	地球研での研究開始のため順次来日を開始していただきます。

問い合わせ先：

総合地球環境学研究所 管理部研究支援課

国際交流係

Tel: +81-(0)75-707-2152

Email: kokusai@chikyu.ac.jp